

2014



石神井中だより

平成26年9月11日 発行 9月号

- 明るく、健康な生徒
- 正しい判断力を持ち、主体的に
学び行動する生徒
- 豊かな情操を持ち、品位ある生徒

<http://www.shakuji-j.nerima-ky.ed.jp/>

学力の向上を目指して

校長 田中 隆史

夏休みが終わり、1学期の後半がスタートしました。夏休み明けの全校集会では、生徒の日焼けした顔、目を輝かせて話を聴こうとする姿がたくさん見受けられ、きっと良い夏休みが過ごせたのだろうと思い、嬉しくなりました。

さて、4月22日（火）に一斉に実施された全国学力調査の結果が、8月26日（火）に新聞等で公表されました。これは中学3年生を対象に、次のような目的で行われたものです。① 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。② 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。③ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。（文科省の実施マニュアルより一部抜粋）

この全国学力調査における本校3年生の国語（主として知識・活用）と数学（主として知識・活用）の平均正答率は、両方とも東京都や全国と同程度の結果でした。また、6月4日（水）に実施された中学3年対象の練馬区立中学校学力調査の社会・理科・英語については、次のような結果でした。

社会の「基礎」と「活用」の平均正答率は、両方とも全国と同程度でした。全国に比べて平均正答率が高かった領域は「世界と比べた日本の地域的特色」、低かった領域は「近代の日本と世界」でした。理科の「基礎」の平均正答率は全国よりも下回る結果でしたが、「活用」の平均正答率は全国と同程度でした。特に、全国に比べて平均正答率が低かった領域は「化学変化と原子・分子」「動物の生活と生物の変遷」でした。英語の「基礎」と「活用」の平均正答率は、両方とも全国より10ポイント以上上回っていました。しかしながら、「英文の要点を聞き取る」「語形・語法を理解する」「単語を正しく書く」問題には若干の課題があることが明らかになりました。

全国と練馬区が実施した学力調査の本来のねらいは、生徒一人ひとりの学力をきちんと分析し、今後の学習活動に生かしていくことです。本校では、これらの学力調査結果と7月に実施した生徒による授業評価の結果をもとに、授業改善推進プランを作成し、確かな学力の向上を目指した授業改善に努めてまいります。学力向上を図るための全体計画や各教科の授業改善推進プランについては、10月末までに本校ホームページに掲載する予定です。

今回の全国学力調査から興味深い結果が新聞に掲載されていました。それは、「新聞をほぼ毎日読んでいる生徒」「携帯電話やスマホに費やす時間が短い生徒」「探究型の総合的な学習の時間に熱心に取り組んでいる生徒」ほど、正答率が高い傾向が読み取れるということです。これらに関わる質問紙の回答結果の集計値は、以下の通りです。



新聞を読むことや携帯電話・スマホの使用頻度について、本校の3年生は東京都や全国と同じような数値を示しています。新聞を読んで日々の出来事に関心をもつ習慣、携帯電話やスマホなどのネットの使用頻度を減らす工夫やルールづくりも学力を向上させるための大きな課題になっています。

☆1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマホで通話やメール、インターネットをしますか。

		本校	都	全国
1	4時間以上	10.0	12.5	11.0
2	3時間以上、4時間より少ない。	8.5	9.5	8.8
3	2時間以上、3時間より少ない。	12.4	14.0	12.9
4	1時間以上、2時間より少ない。	20.9	16.3	15.0
5	30分以上、1時間より少ない。	15.4	14.4	13.0
6	30分より少ない。	11.4	18.3	15.5
7	持っていない。	20.9	14.6	23.5

◆ 校内研修会

7月16日(水)に指導力向上を目指した研究授業を行いました。今年度のテーマは「思考力、判断力、表現力を育てる言語活動の充実」です。その後の研究協議会では、活発に意見交換が行われ、講師でお招きした先生方に指導講評をしていただきました。とても実りある校内研修になりました。(担当 桜井正和)

◆ 避難拠点訓練

8月23日(土)に池淵町会・石神井台東町会(共催)と石神井中学校避難拠点運営委員会による避難拠点訓練が行われました。当日、多くの地域・PTA・教員・生徒が「初期消火」「AED」「煙体」「ハシゴ車試乗」「炊飯」などの訓練に参加し、貴重な体験をしました。(担当 松本 久)

◆ 小中合同研修会

聖徳大学の廣嶋教授には、「9年間を見据えた学習指導の在り方」というテーマで講演をしていただきました。小中一貫教育の学習指導において、「系統的学習」と「各教科で課題改善カリキュラムを作成しながら、小中の学習内容を接続させること」の重要性についてご教授いただきました。講演後は、11月の校区別協議会に向けた分科会も行われ、子どもたちへの効果的な指導法を研究しつつ、課題改善カリキュラム作成に向けて話し合いました。(担当 馬場 亮輔)



【社会科研究授業】



【講演会】



【ハシゴ車試乗体験】

☆新聞を読んでいますか。

		本校	都	全国
1	当てはまる。	10.4	7.4	8.0
2	どちらかといえば、当てはまる。	10.9	12.4	13.1
3	どちらかといえば、当てはまらない。	16.4	16.9	19.1
4	当てはまらない。	61.7	63.0	59.4

☆「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいますか。

		本校	都	全国
1	当てはまる。	20.9	18.0	16.1
2	どちらかといえば、当てはまる。	52.7	39.2	38.7
3	どちらかといえば、当てはまらない。	19.9	28.3	31.5
4	当てはまらない。	6.5	12.6	13.4